

～ コンコードを訪問して～

七飯町副町長 馬場 修 一

七飯町とコンコードは、平成9年11月に姉妹提携をいたしました。姉妹提携の調印に至るまでの準備期間も含め、これまでに104名の中高生並びに21名の町民と17名の引率教員をコンコードに派遣しています。

今年度は、8名の中高生を始めとして、町民や引率教員を含め14名で10泊11日の予定でコンコードに向けて10月11日に出発しました。

出発当日は、天候にも恵まれ、保護者や家族の皆さんの見送りのなか、訪問団一同は心を弾ませて函館空港を出発し、成田空港を経て、現地時間の午後4時30分にニューアーク空港に到着し、ここで、最初の難関である入国審査を受け、ボストン行きへの飛行機に乗り換え、ボストン空港には午後8時に到着しました。

七飯町から丸1日をかけての移動で訪問団員も少々疲れ気味でしたが、ボストン空港ではコンコードの皆さんが大きく手を振りながら、温かい笑顔で迎えていただき長旅の疲れも一挙に癒される思いでした。

その後、スクールバスでコンコードカーライル高校に行き、ホストファミリーとの対面式をした後、それぞれのホームステイ先へと向かいました。

これから、片言の英語でホストファミリーをはじめ、コンコードの皆さんと7日間一緒に過ごすと思うと不安と緊張が高まる一方でした。



ホストファミリーとの対面式

コンコードの概要については、七飯町のホームページでも紹介されておりますが、コンコードは七飯町と同緯度であり大西洋岸のボストンの北西約30キロに位置しています。

ちょうど、函館、大沼間ほどの距離になります。このため、四季もはっきりしており、気候も七飯町と同じようで、私たちが訪れた10月の気温は七飯町とさほど変わりなく、紅葉も始まりかけていました。

面積は、七飯町のおよそ3分の1の67.3平方キロ、人口は15,300人の大都市近郊型の典型的な町です。

また、自然が多く、日本のように住宅が軒を連ねているのではなく、自然の中に住宅が点在し、別荘地のような雰囲気醸し出しています。

町の中を車で道を走っていると、リスなど野生の小動物が現われたり、樹木や植物も七飯町と同じようで、まるで大沼の周遊道路を走っているような感覚を覚えました。

コンコードの方々の就業状況を見ると、サービス業、公務員、卸売業の3次産業が約90パーセントを占め、その多くがボストンに勤務しています。

そのためか、タウンハウス（役場のよ
うな所）で話しを伺うと、これ以上、人口が増えることは望んでいなく、開発を避け自然を保全し、田舎の雰囲気を残しながら観光に力を入れていると述べていました。

コンコード滞在中は、コンコード町内だけではなく、クランベリー農場などのコンコード近郊にも足を延ばしましたが、山地がなく、どこまでも地平線が続き、空がとても広く感じられ大地の広さというものを感じました。

先に述べたように、コンコードの方々は初対面にも関わらず、私たちにとても温かく親切に対応していただき感謝の気持ちでいっぱいです。

コンコード滞在中は、コンコード町内や近郊を案内していただきましたが、その際に通訳のために同行していただいたのは、コンコードに住んでいる日本人の方々でした。

コンコードにこんなにも日本人がいるのかと驚くと同時に、海外で活躍している日本人を見て、今回の訪問団の中高生は、いつかは私も海外で活躍したいと思い巡らせていることを願っており、また、そうであって欲しいとも思っています。

また、引率教員を始めとする一般町民の皆さんは、アメリカの授業の仕方を視察するため単独での学校訪問、自社で製造した食品のセールス、自分の職業としている仕事をコンコードで実際に体験するなど、目的意識をしっかりと持った行動に敬意を表したいと思います。

中高生は、コンコード滞在中はコンコードカーライル高校の授業へ参加するとともに、ホストファミリーとアドレスの交換をするなど、しっかりと交流を果たしており、最終日の別れの朝には、涙で別れを惜しんでいた光景は交流の深さを物語っていると感じています。



コンコードタウンハウス前の街並み

最初は、中高生を一人でホームステイさせることに多少の不安はありましたが、この7日間で家族同様に過ごしたようで、彼らの勇気と行動力に感服しました。

今回のコンコード訪問を通して感じたことは、コンコードと七飯町とのこれまでの交流がしっかりと根付いており、その輪が確実に広がってきていることです。



コンコードの皆さんとお別れの朝

文化や生活習慣、言葉の違いを乗り越えて続けてきた交流は、お互いの心をしっかりと結んでいると言えるでしょう。

コンコードの皆さんは、平たい言葉で言うと「本当に良い人たち」ばかりです。

コンコードの皆さんが、今度七飯町を訪れた時にはコンコードの方々のように友愛を込めて最高の笑顔で迎えたいと痛感しているところです。

国際化が当たり前の今日において、平成9年に姉妹提携をしてから平成24年で15周年を迎えますが、七飯町を誇りに思い、また、日本の文化を大切に、コンコードの生活習慣や文化を尊重しながら交流を続けていくことは非常に意義のあることだと考えています。

七飯町が実施してきている海外派遣事業が、今後とも、子どもたちをはじめとする町民の国際感覚の情操や海外での活躍の足がかりになること祈念いたします。

今回の海外派遣事業の実施に当たり大変お世話になったコンコードの皆さんに感謝とお礼を申し上げ、そして、平成22年度七飯町海外派遣交流事業にご協力いただいた団員の皆様にお礼を申し上げます。

コンコードの皆さん、次にお会いすることを楽しみにしています。